

避難所の感染予防意識高め

中越沖地震13年 段ボールベッド 間仕切り体験会

柏崎



段ボール製ベッドと間仕切りの組み立てを体験する住民
＝16日、柏崎市

中越沖地震から13年となった16日、最大震度6強を観測した柏崎市では、新型コロナウイルスなどの感染症予防策として避難所で使う段ボール製のベッドや間仕切りの体験会が初めて開かれた。全市一斉の地震対応訓練もあり、住民は災害や感染症に備える意識を高めた。

市は本年度、段ボール製のベッドと間仕切り100セットを新たに購入した。災害発生時に足りない分は、災害協定を結ぶ段ボール製造会社に随時発注する。

ベッドは縦約200センチ、横約100センチ、高さ約30センチで、枕の上に屋根が付く。間仕切りは高さ2センチ弱で、2辺四方を囲むことができ

る。飛沫感染やエコノミークラス症候群の予防に効果があるとされる。

体験会は市が北鯖石、鯨波の両コミュニティセンターで開き、各町内会の自主防災会などから約120人が参加した。北鯖石の体育館では、住民約30人が班に分かれ、市職員の指導を受けて組み立て作業に臨んだ。ベッドは約10分で完成したが、間仕切りは高さがあるため苦労する班が多く、15分ほどかかった。

参加した与三町内会の萩野義一会長(89)は「ベッド

は硬くないので寝ていて楽だが、組み立てるのは大変だ。感染予防にはいいが、場所を取るので会場の収容能力が課題になるのではないかと話した。

全市民を対象に、地震の揺れと同時に身を守る行動

新発田 電二一〇二番
おまかせ

をするシェイクアウト訓練も行われた。防災行政無線の放送を合図に、その場で姿勢を低くして頭を守り、揺れが収まるまで動かないよう呼び掛けた。新道小では、全校児童182人が机

の下に隠れた。4年鈴木爽加さん(10)は「災害はいつ起こるか分からないので、これからも訓練を頑張りたい」と話した。
毎年法要を営んでいる同市番神2の番神堂では、新型コロナウイルス感染防止のため規模を縮小し、住民ら10人が地震発生時刻の午前10時13分に黙とうした。秋山文孝任職(89)は「災害に遭われた方の冥福と、新型コロナウイルスの早期収束を願った」と話した。

かご話

○：大阪・梅阪急電鉄神戸線ら100周年をの歴史を紹介する展示が大阪梅田た11写真11。9月30日まで

○：大阪梅田駅では、駅写真で紹介。利用者が足をいた。大阪府箕面市の看護「阪急は色が上品。座ったの電車と違い、みんなの憧

○：阪急電鉄によると、

